

No. 14

31 Jan. 2007

日本・パプアニューギニア協会会報

ごらくちよう

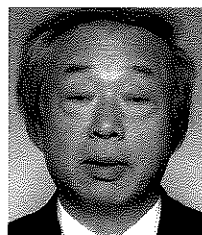
Bird of Paradise

発行 NPO法人日本・パプアニューギニア協会

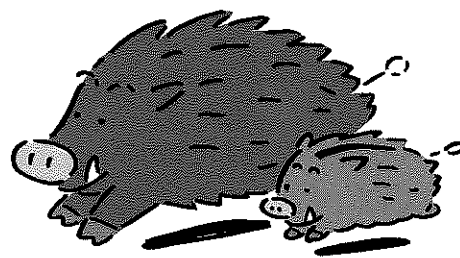
発行日 平成19年1月31日

編集 NPO法人日本・パプアニューギニア協会広報部 〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-17 千代田会館6F(ニューギニア航空日本支社内) TEL 03-5216-3555 FAX 03-5216-3556

新年のご挨拶



NPO法人
日本・パプアニューギニア協会
副会長 高松 裕満



新年明けましておめでとうございます。

昨年も自然災害のみならず、内外共に多難な年でありました。この先、世界は或いは地球環境はと考えると、今のうちに人類の英知を集めて、何とでもこの素晴らしい宇宙船地球号を守らなければとの感慨を新たにせざるを得ない一年でもありました。

新年にあたり、この難しい時代が幾ばくかなりとも希望に満ちた年となりますよう会員の皆様と共に祈念したいと思います。

さて、当協会も設立以来5年目を迎え、又、NPO法人としての承認を受けてからも既に3年目になろうとしています。其の間、本業を持ちながら限られた時間、又、資金の中で種々の活動を行ってきましたが、多少なりとも両国の交流に当協会が貢献できたものと思っています。

昨今、「国家の品格」という言葉を耳にしますが、エゴを排し、国としての矜持を超然として保持し、凜とした風格を表す意味だと理解しています。然しながら、宗教や歴史的民族対立など混在する価値観の大きな変化の中では、種々の軋轢を引き起こすこととなっているのが現状ではないでしょうか。そんな中でも比較的、首尾よく其の

役割を機能させてきているのが、草の根活動、NPOの動きでしょう。欧米の所謂ボランティア団体の活動に比較して未だ歴史の浅い日本の団体ですが、最近認可されたNPOの数は急速に増加し、其の数は既に25,000を超えています。ただ、其の実態は本来行政が直接的に関与すべき法人も多数含まれており、当協会のような趣旨での活動団体は未だ少ないのが実情です。

実現したい多数の案件でも国の役割との線引きをどのようにするか、又、当協会の範疇の案件でも限られた時間と資金の中でどのように実施していくか、越えるべき課題は少なくありません。今年は、相乗効果が生まれるようにPNG/JAPAN ASSOCIATIONのような現地提携先が設立されることが期待されています。そんな中で、協会の役割をどこまで広げるか、規模は、等を含めて協会の今後の在り方、方向性を会員の皆様と考えていきたいと思っています。

従いまして、今年も忌憚のないご意見をお寄せくださいますようお願い申し上げ新年のご挨拶といたします。

2007年 元旦

老師様と夢の川

安藤 弘子(当協会会員)

40年前、おなじ夢を3度みました。交通事故に遭った1年後「再生不良性貧血」と診断され、何度も生死の境をさまよいました。当時はまだ耳慣れない難病でした。取材に訪れた新聞記者の「臨死体験までされたのですから不思議な現象を沢山みたのでは」との問いに夢の話をしました。それは茶色く濁った大きな川の中から大きな男の人の片腕が現れて私を岸へ押し戻す夢でした。<見たこともない大きな川、あの手の男の人は誰なのだろう・・・>日覚めては夢を追いかけていたのですが、すぐに繰り返す辛い症状に忘れてしまいます。話し終えた時、記者の方はすかさず言いました。「お父さんですよ。戦死されたお父上が護って下さっているのです。」

その言葉に私は初めて父の存在を意識しました。生まれる1ヶ月前の召集でした。様々な人間関係の中で生きてきた私には恋しく思う隙さえありませんでしたが、命の瀬戸際に立った時の大きな手の感触は今でも忘れる事はできません。

6ヶ月後、私は奇跡的にも総合病院の個室から大部屋に生還する事ができました。闘病中にふとしたご縁で知り合った神戸の故谷川恵薫尼様から贈られた一枚の色紙が私に力を与えて下さいました。恵薫様にお会いしたい!との願いが生きる目標になりました。退院が許されると私は真っ先に神戸に行きました。そして故山田無文老師様にもお目にかかる事

ができました。老師様は「僧侶でありながら先の大戦を止める力になれなかった」との思いから南太平洋友好協会を立ち上げ、晩年になられるまで慰霊行と遺骨収集を続けられていました。

「今度は東部ニューギニアや、わしと一緒に行くか」とおっしゃって下さいましたが、体力に自信のない私は次の機会をお約束したまま叶わぬ夢に終わりました。

平成15年に定年を迎えた私は、翌年厚労省主催の慰霊行に参加させて頂く事ができました。朝焼けのなかに見えてきたウェワクの海岸線、黒々としたジャングル、蛇行する河にとめどもなく涙が流れました。緊張の中での慰霊行でしたが、私は夢と全く同じ光景に出遭いました。間違いなく夢の川です。40年前の記憶が瞬時に甦りました。そしてミッションヒルの慰霊碑の文字は・・・お優しく懐かしい山田無文老師様の筆跡でした。

5000キロという距離を隔てて、時を隔てて、父の眠るこの国で師と仰ぐ方にお目にかかれました。偶然というにはあまりにも不思議なご縁です。父の魂が呼び寄せて下さったのかもしれませんが。慰霊に行ったこの国で多くを学び、優しさを教えられました。ありがとう。私のパプアニューギニア。

付記: その後のPNG大使館の方のご尽力で、父の終焉の地がミッションヒル下の高射砲陣地と判明しました。

SERIES

パプアニューギニア 蘭紀行 ④ (最終回)

伊東 浩(当協会会員)



伊東 浩(いとう ひろし)
当協会会員。定年退職後、2000年からパプアニューギニアの各地に毎年蘭の散策をしながら生態調査を行う。
2005年、エンガ州クムル・ロッジにSky Orchid Gardenを完成。2002年、藤沢洋蘭愛好会会長に就任。2002年、世界らん展組織委員、個別審査部門クラークに就任。

早いもので、蘭紀行も最終回を迎えることとなりました。“ごらくちょう”に記載して頂き誠に有り難うございました。少しでも、蘭の魅力を感じて頂けましたでしょうか?

日本では見る事の出来ないPNGの大自然、太古の昔から雲霧林にひっそりと咲くデンドロビウム、これこそ森の妖精です。ご紹介した以外にも、マダンの沖合カルカル島、エンガ州ポゲラ、ワバック、そしてゴロカ近郊、など魅力的な地域がまだまだ沢山あり、我々、蘭の愛好家にとって興味が尽きない島です。

一方、地元の違法伐採などによって貴重な蘭達が消滅していくボルネオ島と同じような運命をたどりつつあり、協会会員の一人として自然破壊を憂慮しています。

◆私が蘭にのめり込むようになったきっかけは?

今から約40年前、地方公務員をしていた時、凝り性な性格で自宅に一坪温室を手作りで建て、洋蘭(カトレヤ、シンピジウム、デンドロビウム等)を栽培していました。その後、民間会社に移り海外勤務(上水道プロジェクトチーム)に従事、約16年間、蘭のことは忘れていました。唯、工事を無事完成させるのに没頭しておりました。

その後定年を迎え、趣味で庭に3坪の温室を建て、また洋蘭を始めました。それは、私の海外勤務地がほとんど有名な蘭の自生地ばかりであり、たとえば、マレーシア、コタキナバル、タイ、バンコク、レムチャパン、インドネシア、メダン、ケニ



上/ミッションヒルからムシュ島方面を望む

左/山田無文老師揮毫の英霊碑

(写真提供: 賀部祥史様)



デンドロビウム ラウエシー アルバ 新種かも知れない



2800mで発見された新種かも知れない コリバスP

ア、イタンガ等は、無造作に咲く野生蘭の宝庫であったからです。

パプアニューギニアは、いまだに未開地が残り、私の好きなデンドロビウムの宝庫であります。特に、ラトーリア属、オキシグロッサム属などは色彩が素晴らしい。標高1800m以上の雲霧林では、温度差、紫外線、日光等により色彩が微妙に変化します。又、蘭科植物などは、これからまだまだ新種が発見される可能性が

残っています。

◆ニュース「パプアニューギニアで新種の蘭を発見」

昨年10月15日、日経新聞に「新種の蘭30種を発見」という記事が出ていました。そこはPNGキコリ地方の河口に近い低地であり、WWF(世界自然保護基金)の植物学者らを含む調査隊が1998ー昨年8月にかけ複数回調査に入り発見したそう

です。キコリ川の上流には‘蘭紀行’でもご紹介したクツブ湖があり、日本ではまだ紹介されていない野生蘭が生育しています。

私にとって、パプアニューギニアは何度旅しても新たな発見がある地であり、私はこれからも、まだ見ぬ‘蘭’を求めて旅に行くことでしよう。

「バイ・ジェネレーション」 回想記

永井 昌和 [リュウダの会事務局(埼玉県鶴ヶ島市教育委員会)]

鶴ヶ島市には「おれらのリュウダ祭」という子どもによる子どものお祭りがある。その開催を手掛ける市民団体「リュウダの会」が中心となって、昨年の9月末からの3週間、パプアニューギニアのモロベ州から舞踊団「バイ・ジェネレーション」を日本へ招聘した。

鶴ヶ島市は、今から11年前に寄贈されたパプアニューギニアを中心としたオセアニア民族造形美術品1,725点を所蔵している。その活用事業の一環として、「バイ・ジェネレーション」は、かつて2度に亘り鶴ヶ島に招かれ、強烈な印象を残した。私たちは、子どもたちのためにもう一度彼ら呼びたいと願っていた。

そうした中で、日本・パプアニューギニア協会、新潟パプアニューギニア協会、ニューギニア航空、高麗神社などの協力

のもと、今回の招聘が実現することとなったのである。

9月30日、タクシー運転手の寝坊により飛行機の離陸時間を45分も遅らせるというエピソードとともに、メンバー6人は日本へとやってきた。以降、彼らは初めての2週間を鶴ヶ島で、残りの1週間を新潟で過ごした。

鶴ヶ島では高麗神社の職舎を拠点に、鶴ヶ島市、日高市、川島町の保育園、幼稚園、小・中学校、高校など、実に18ヶ所で20回ものパフォーマンスを行い、3500人も市民が彼らのパフォーマンスを体験した。

「パプアに行ってみよう」「歌も踊りも上手でビックリした」「ぼくも歌いたくなった」「また来てほしい」これは子どもたちのたくさんの感想のうちのほんの一部だ。



「ジャビル」という力強い踊り



子供たちとふれ合う

また現場の先生は「どの国にも誇りとする文化があり、それに優劣はない。真の国際化とは、自国の文化を尊び、他国の文化を大切にすることを心を持つことである。彼らはそれを教えてくれた」と、その意義を代弁してくださった。彼らとの交流は、きっと多くの人の心に生涯忘れ得ない思い出を残したに違いない。

最後に、今回の招聘については、そのすべてが心ある市民の手で行われたことが特筆される。学校等への受け入れ調整から通訳、送迎、運搬、食事の世話など用務は実に多岐に亘ったが、ポリライブを初め、東京国際大学、鶴ヶ島市学童保育の会の方々支えてくださった。また、愛知県豊田市の藤岡国際交流協会の応援も心強かった。この場を借りてすべての方々に感謝を申しあげたい。



子供たちと一緒に踊る



フェアウェルソングを歌いながら

日本・パプアニューギニア協会
法人会員紹介 第7回

みなさん、こんにちは

「伊藤忠商事株式会社です。」

東京本社 / 〒100-8077

東京都港区北青山

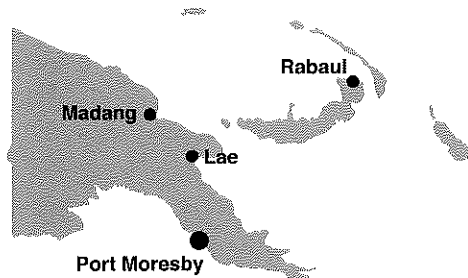
2丁目5番1号

TEL(代表) 03-3497-2121

FAX(代表) 03-3497-4141

伊藤忠商事株式会社は、1858年初代伊藤忠兵衛が麻布の行商で創業したことには始まり、約一世紀半にわたって繊維、機械、情報・通信関連、金属、石油等エネルギー関連、生活資材、化学品、食糧・食品等の各種商品の国内、輸出入および海外取引、さらには損害保険代理業、金融業、建設業、不動産の売買、倉庫業ならびにそれらに付帯または関連する業務及び事業への投資を多角的に行う企

業へと進化し、成長を続けてきました。弊社は1973年よりポートモレスビーに事務所を開設しており、機械関連ビジネスを中心とした活動を行っています。主に自動車の輸入、マグロ等水産物の輸出を行っておりますが、近年はパプアニューギニアの豊富なエネルギー資源に注目、特にクリーン・エネルギーとして今後ますます需要拡大が見込まれる天然ガスの開発事業の実現に向けて現地企業や政府と共同開発の検討をしています。パプアニューギニアは1992年にKutubu油田より原油生産を開始して以来、継続して14年間の原油輸出を行っており、現在でも同国の外貨獲得事業としては金や銅などの金属資源輸出と並ぶ大企業で



はありますが、近年は原油の埋蔵量減少に伴い、生産量が減少傾向にあります。その一方でHighland地方には豊富な天然ガスが地下に埋蔵されている事が確認されており、原油生産が落ち込む中、天然ガス資源の開発は次世代の経済を担う国家政策として期待されています。弊社は従来より行っている機械輸入や食料輸出に加え、パプアニューギニアの原油輸出への関与や天然ガスの開発支援等を通じて同国の経済成長に貢献すべく、現地企業や政府と協力しながら実現に向けて検討を続けています。



ポートモレスビー事務所長と現地スタッフ

事務局からのお知らせ

事務局宛に以下のご著書を贈呈していただきました。

「赤道直下の宝箱 旅するパプアニューギニア」

山口由美(文) 辻丸純一(写真)

千早書房1600円+税



旅行作家山口由美さん、写真家辻丸純一さんが過去10年にわたってPNGを訪問された集大成。旅行情報も満載されています。

小野真弓さん、初代PNG親善大使に就任!

2006年9月から一年間、PNGのTV番組

撮影がきっかけで、初代親善大使に就任。PNGの子供達と仲良しのチャーミングな女優さんです。PNGを様々な場面で紹介して下さいますので、温かい応援をお願いします。

永代神楽祭のご案内(東部ニューギニア戦友遺族会)
2007年4月5日午後2時靖国神社にて、東部ニューギニア戦友遺族会主催の下、永代神楽祭が執り行われます。参加ご希望の方は、東部ニューギニア戦友遺族会事務局までご連絡下さい。(TEL:03-5216-3555)

「鶴ヶ島のPNG民族造形美術品、鑑賞ツアー」のご案内

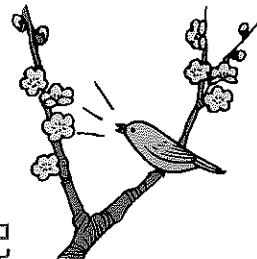
先日、別便にてご案内をお送りしましたが、受け付けはまだ行っております。奮ってご参加ください!

坂元紫乃さんがフォトコンテストに入賞!

東京国際大学国際報道学科2年の坂元紫乃(さかもとの)さんが、JICA(国際協力機構)が主催する「第27回国際協力フォトコンテスト」において、一般賞大洋州部門に入賞されました。坂元さんは、同



上記入賞写真は実際はカラーの素晴らしい作品です。大学国際関係学部が昨年9月に実施した「海外プログラム:パプアニューギニア・コース」に参加した際にこの写真を撮られました。



編集後記

PNGをはじめ、すべての国に平和が訪れることを祈るばかりです。

2007年 元旦 (佐藤直子)

日本・パプアニューギニア協会 会員募集

本協会では随時会員を募集しております。お知り合いの方にぜひお声をかけて下さい。
*会員数 2006年12月末 法人会員/15 個人会員/92

本協会は、日本とパプアニューギニアが友好関係を促進し相互理解を深めることを目的として、文化、学術、芸術、スポーツ、観光等様々な活動を行っております。どうぞ本協会の活動をご理解下さり、ご協力の程をお願い申し上げます。

申し込み方法 / 郵便局の振込取扱票にてお申し込みください。
年会費 / 個人会員 5,000円 法人会員 50,000円 PNG人 1,000円
会費受付 / 郵便振替口座をご利用ください。

口座加入者名 / 番号 00140-2-277582
加入者名 / 日本・パプアニューギニア協会
問合せ先 / 日本・パプアニューギニア協会 事務局
〒102-0074
東京都千代田区九段南1-6-17 千代田会館6階
(ニューギニア航空 日本支社内)
電話:03-5216-3555 FAX:03-5216-3556
E-mail:info@air-niugini.co.jp